

令和3年度 京都市民健康づくり推進会議 口腔保健部会 摘録

<開催日時>

令和4年1月28日（金）午後1時30分～午後3時

<開催場所・形式>

原則、オンライン（ZOOM）

来場の場合、職員会館かもがわ

<構成団体及び出席者>

資料1，2のとおり

<摘 録>

- 1 開会の挨拶 事務局（健康長寿のまち・京都推進室長）
- 2 出席者紹介等 事務局
- 3 部会長挨拶 部会長
- 4 議 事 進行 部会長

【議事1】京都市口腔保健推進実施計画「歯ッピー・スマイル京都」に基づく取組と今後の予定について

報 告 事務局

資料3及び参考1，2に沿って説明

意見交換等 ○機関・団体等 ●事務局

○ 部会長・学識経験者

昭和の時代はかかりつけ歯科医という概念はなかった。今の時代は、患者自身が主治医となり、かかりつけ歯科医と一緒に予防していくことが大切である。また、口腔機能が衰えていくと全身の健康に関わる。京都市口腔保健推進実施計画が策定された背景にはこういったことがある。

○ （一社）京都府歯科医師会

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で市の歯科保健事業も従来通りにいっていないところもあり、またコロナ禍において口腔に関する新たな健康課題も出てきている。京都市財政が厳しい状況であることは承知しているが、そういった課題もあるなか、行財政改革計画の方針に基づき、今後、口腔保健推進実施計画も廃止や他の計画と統合になるということか。

● 事務局

本日は、行財政改革計画に示された方針を説明させていただいた。現在、京都市においては約150の分野別計画がある。口腔保健推進実施計画に限った話ではな

く、今後、策定や改定予定のすべての市の計画について、P D C Aサイクルに基づいて、位置づけ等を整理し、検証や検討をしていくこととなる。当課としては、口腔分野単独計画の重要性を踏まえて検討していきたい。

○ (一社) 京都府歯科医師会

口腔内を健康に保つと医療費が下がるというエビデンスもあり、口腔分野の取組の推進による京都市財政への効果も期待できるのではないかと。京都府歯科医師会としても頑張っていきたい。

○ (公社) 京都府歯科衛生士会

京都市では、通いの場でのオーラルフレイル対策事業を推進していくということだが、当会においては、市からの委託を受け、通いの場における歯科衛生士による専門職支援に携わる人材を育成するための研修会を開催したところである。引き続き、地域でのオーラルフレイル対策の推進に対し、会として役割を發揮できるよう進めていく。

【議事2】市民の歯科口腔保健の状況について

報 告 事務局

- (1) 実施計画に基づく状況 資料4に沿って説明
- (2) 健康づくりアンケート結果（歯科抜粋）資料5及び資料6、参考3に沿って説明

意見交換等 ○機関・団体等 ●事務局

○ 部会長・学識経験者

歯科の2大疾病は、歯周病とむし歯であるが、むし歯は全国的にも減少しており、京都市でも同様と思われる。歯周病について、京都市の状況はどうか。

● 事務局

歯周病に関する実施計画関連の数値から判断すると、全国値と比較して中学生の歯ぐきの状態は良好と言える。一方、40歳代以降の進行した歯周病の状況の数値は、計画策定時点と比較し悪化している。しかしながら、歯周病以外の他の項目も同様であるが、成人期以降の歯科保健状況については、経年把握できない項目や経年把握していても調査数が少ないなどの多くの課題があると考えている。

○ 部会長・学識経験者

歯周病は進行に時間がかかり、気づきにくい。予防が難しく、公衆衛生的対策がとりにくい疾患である。

○ 市民公募委員

子どもむし歯の状況は良好とのことだが、京都市は、他都市と比べてむし歯予防に関する良い施策等があるのか。

● 事務局

子どものむし歯罹患率の減少との明確な相関関係をお示しできるものではないが、本市のこれまでのむし歯予防の取組としては、政令市で初めてすべての市立小学校

で集団フッ化物洗口を開始したことなどがある。比較的昔からむし歯予防施策を進めてきた。

○ 部会長・学識経験者

むし歯予防には、歯みがき自体よりもフッ化物洗口を含むフッ化物応用が有効であることは立証されている。

○ 市民公募委員

計画策定時点に比較し、令和元年度・令和3年度と歯科健診を受けている方の割合が減っている。何か理由があるか。新型コロナによる影響はあるか。

● 事務局

令和3年度の健康づくりアンケートでは、一部の設問でコロナ禍の影響についてもお尋ねしている。その結果から、歯科健診や歯石除去について、一部の方は「コロナ禍だから今はしていない」と回答されている。たしかに、計画策定時点と比べると、歯科健診を受けている市民の割合は減っている。令和元年度時点の結果でも減少しているため、コロナ禍だから下がっているという理由だけではないと考える。

一方、計画策定時点のアンケートと令和元年度・3年度のアンケートでは、歯科健診を受けたかどうかの設問の質問文と回答肢が変更されており、歯科治療や歯科健診の範囲をどうとらえたか、といった点も影響しているのではないかと考えている。いずれにせよ、歯科健診を受けていただくための啓発は必要と認識している。

○ 市民公募委員

実施計画における目標値はどのように設定されているのか。

● 事務局

本市の実施計画の上位プランである国の歯科口腔保健法に基づく基本的事項に設定されている目標値をベースに本市の状況に合わせて設定した。

○ (一社) 京都府歯科医師会

京都市では昔からむし歯予防に取り組んでいる印象である。先日、新聞記事でみたが、京都市の中学校のむし歯の割合は政令市のなかでも最も少ないという状況ということだ。中学生のむし歯の割合を少なくするためには、小学校でのむし歯予防の取組が大切である。先ほど、事務局が紹介した市立小学校での集団フッ化物洗口のほか、フッ化物歯面塗布事業、さらには学童う歯対策事業といった取組の成果ではないかと考えている。

○ (一社) 京都府歯科医師会

後期高齢者歯科健康診査において、フレイル評価で「要注意」とされた方が一定数いらっしゃるようだが、健診後の対応についてどのようにされているのか、又は何か検討されているのか、教えてほしい。

○ 保健福祉局 生活福祉部 保険年金課

本市の後期高齢者歯科健康診査については、平成30年度から開始した事業であり、現在データを積み上げているところである。どういった課題があるのか、どのように対応するのか、といったことについては、今後、事業委託先の京都府歯科医

師会とも相談しつつ検討していきたい。

● 事務局

本市後期高齢者歯科健康診査においては、地域介護予防推進センターや地域包括支援センターの紹介を健診票に盛り込むなど、フレイル評価の結果からフレイル対策につながるような事業となるよう工夫して構築した。また、フレイル判定で要注意とされた方については、介護予防等ではなく医療の介入が必要なケースも想定されるため、その対応まで含めると受け皿となる地域歯科医療機関を抱える歯科医師会の協力と支援が不可欠と考える。

○ (一社) 京都府歯科医師会

全身の健康と歯と口の健康は密接な関係がある。歯と口の健康のみならず、市民の健康のため、様々な住民サービスと歯科をつなげていきたいと考えている。

○ (一社) 京都府歯科医師会

実施計画に基づく数値のなかで、障害者・要介護高齢者等に係る状況については策定時以降把握できていない。状況把握を検討していただきたい。

● 事務局

御指摘のとおり、状況が把握できていない。今後の検討課題と認識している。

○ 部会長・学識経験者

新型コロナによる影響が数値にどのような影響を及ぼすかも考える必要がある。各団体の取組にも影響はないか？

○ (一社) 京都市老人クラブ連合会 (すこやかクラブ京都)

すこやかクラブでは、5万人を対象に新聞を年2回発行しており、その中でもフレイル等に触れている。コロナ禍において、健康づくりに参加される方は減っている。ウォーキング会等を開催すると600人ほど集まるため、感染対策に気を遣う。

○ 市民公募委員

オーラルフレイルやむし歯予防など歯と口の健康づくりについては、幼年期や若年期からの意識付けや習慣付けが重要であり、そのために正しい知識が得られることが必要である。加えて、身近な80歳代の方がご自身で何でも食べていらっしゃるのを拝見すると、知識と一緒に「自分で食べる」という意志も大切と感じる。

○ (一社) 京都府歯科医師会

今後、コロナが収束したとしても、社会はコロナ禍以前には戻らないと思うが、計画や事業等はコロナ禍以前の想定を基に検討されているのではないか。すでに今の子ども達はマスクをすることが当たり前の生活であり、マスクをしなくてもよい状況になっても果たしてマスクを外して生活するだろうか。我慢してマスクをしているのではなく、当たり前にマスクをする、口元を見せるのが恥ずかしいのでマスクをする、といったことではないか。黙食やマスク下での口呼吸など、口腔機能の低下につながる要素が増加している。また妊婦さんがマスクをすることにより、酸素を十分に取らぬ、へその緒も短くなっているという報告を聞く。つまり、コロナ禍で生まれてくる子ども達は胎児の時に酸欠状態で育っている。その子ども達

にどのような影響が生じるのか、今後はマスク着用が日常となったことによる影響も気にかける必要がある。そういったことから、オーラルフレイルは高齢者だけでなく、子どもにも当てはまること意識しなければならないと考える。

また、京都市の健診制度の中には、歯科健診が充実していない世代がある。京都市へは手厚い事業展開の検討をお願いしたい。

● 事務局

計画の改定の際には、いただいた御意見を踏まえて検討していきたい。本市の財政状況は非常に厳しいが、歯科口腔保健の重要性は認識するところであり、真に必要な事業については、引き続き頑張っていきたい。

【議事3】その他

報 告 事務局

健康長寿のまち・京都推進プロジェクトについて

資料7に沿って説明

意見交換等 ○機関・団体等 ●事務局

○ (一社) 京都府歯科医師会

わかりやすいテーマの設定について、歯科関連では「8020運動」が挙げられている。80歳で20歯以上の自分の歯を保つことを目指す重要な目標ではあるが、かなり長期の目標となるうえ、80歳に到達せずに20歯未満の場合は自分ごとと考えられない。より広い年代でわかりやすいとするならば、例えば、「一口30回噛む」といった、多くの人がその時・その場でできるテーマが良いと思う。

○ 部会長・学識経験者

「8020運動」がスローガンとして設定された30年前には、8020達成者は1割もいなかったが、5年前には5割を超えた。目標のハードルは多少高くても、それを目指して努力し、超えられることもある。容易い目標ではなく、少し高い目標とすることも肝要ではないか。様々な点から検討していただきたい。

5 閉会の挨拶 事務局（保健担当部長）

以上、午後2時55分閉会